

一般国道51号 成田拡幅

(再 評 価)

平成19年10月16日
関東地方整備局

目 次

1 . 事業の目的	1
2 . 計画の概要	2
3 . 道路整備の必要性と効果	3
(1) 周辺道路の交通状況	3
(2) 成田周辺地域の交通円滑化の推進	4
(3) 航空貨物需要の増加に伴う対応	5
(4) 沿道環境の改善	6
4 . 事業の経緯と進捗	7
(1) 事業の経緯	7
(2) 事業の進捗	8
5 . 費用対効果	9
6 . 今後の対応方針（原案）	10

1 . 事 業 の 目 的

成田拡幅事業の目的

- ・ 交通渋滞の緩和による主要幹線道路としての機能回復
- ・ 交通事故減少、沿道環境改善による安全で快適な生活環境の確保

一般国道 51 号は、千葉、成田、鹿嶋、水戸を結ぶ延長 134km の主要幹線道路です。

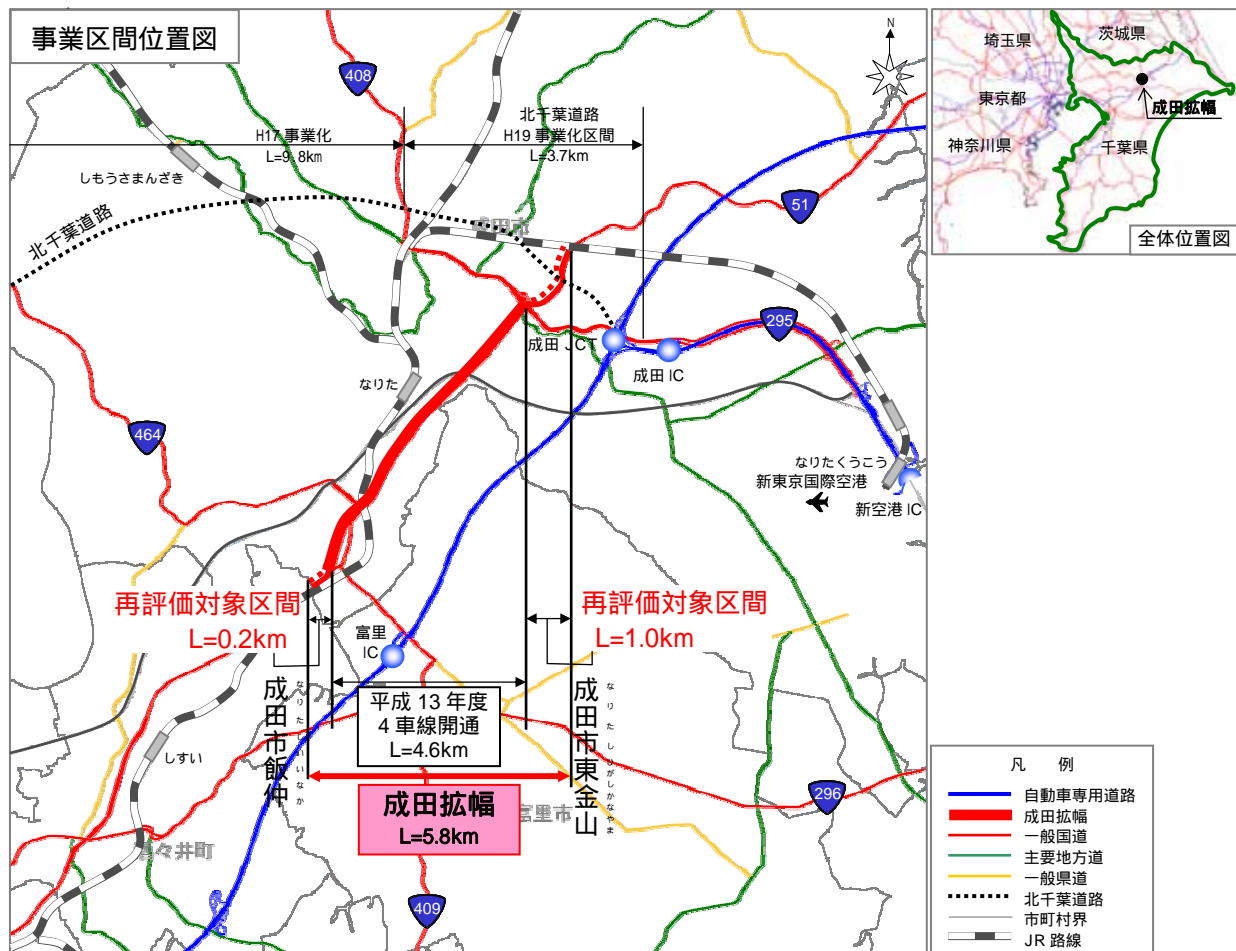
千葉県成田市における国道 51 号の道路整備状況は、成田拡幅事業前まで歩道幅も十分に無い 2 車線道路であり、交通渋滞も発生している状況でした。

このような状況の中、昭和 53 年には成田空港が開港し、また、国道 464 号北千葉道路（千葉県成田市押畑地先から成田市大山地先の 3.7km 区間）が平成 19 年度に事業化されました。

成田拡幅（延長 L=5.8km）は、交通問題の解消と空港へのアクセス関連道路を目的として、昭和 45 年から事業を行っている 4 車線道路への拡幅事業です。

現在、事業区間 5.8km のうち 4.6km 区間の 4 車線整備が終了しています。

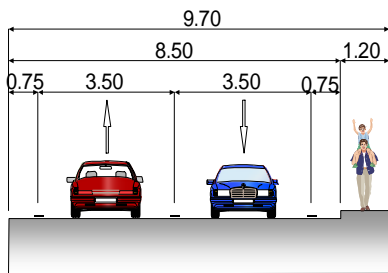
事業評価対象区間は、現在 2 車線の起点側（南側）0.2km と終点側（北側）1.0km の計 1.2km 区間で、終点側には、北千葉道路が接続する予定です。



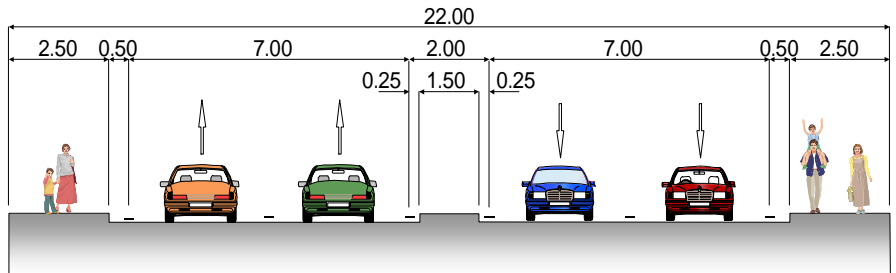
2 . 計 画 の 概 要

区 間：自) 千葉県成田市飯仲^{しいなか}
 : 至) 千葉県成田市東金山^{ひがしかなやま}
 計 画 延 長：L=5.8km
 幅 員：成田市飯仲～成田市寺台 W = 22.00m
 成田市寺台～成田市東金山 W = 26.00m
 構 造 規 格：第 3 種 第 1 級
 設 計 速 度：80km/h
 車 線 数：4 車 線
 全 体 事 業 費：約 217 億 円
 標 準 断 面 図：

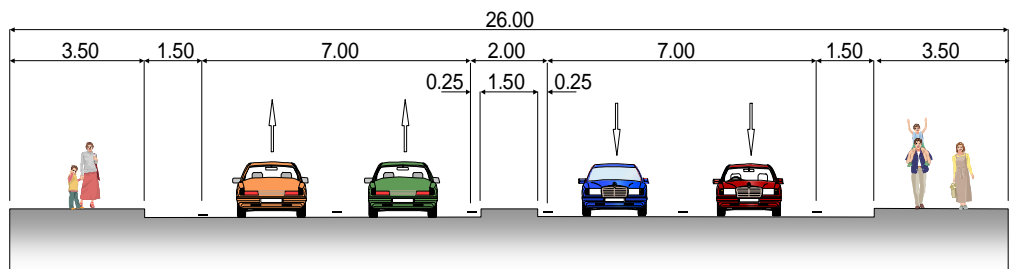
現況



成田市飯仲～成田市寺台間 (幅員 22.0m)



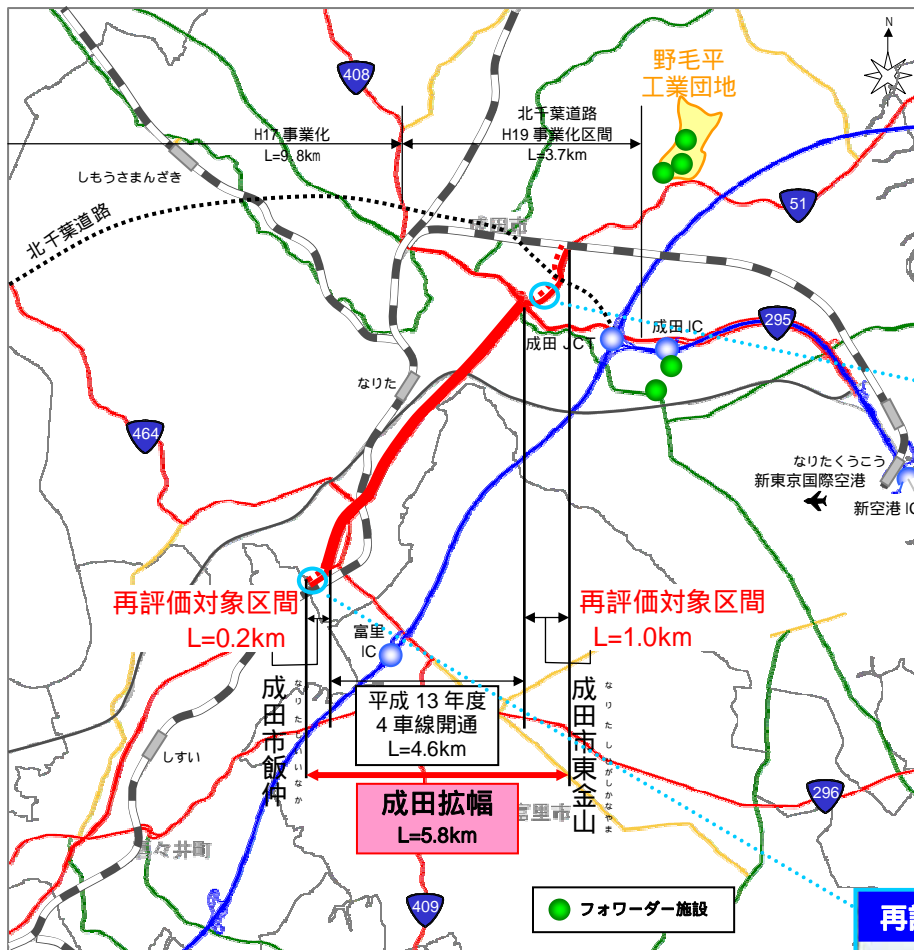
成田市寺台～成田市東金山間 (幅員 26.0m)



3. 道路整備の必要性と効果

(1) 周辺道路の交通状況

- ・再評価区間（北側）については、広域幹線道路である北千葉道路（成田市押畑～成田市大山：3.7km）が、平成19年度に事業化され、平成20年代半ばに接続する予定です。
- ・再評価区間（南側）については、擦り付け区間において渋滞が発生しています。
- ・国道51号周辺には、成田空港関連のフォワーダー施設が5箇所存在しています。



(2) 成田周辺地域の交通円滑化の推進

- 北千葉道路が平成 20 年代半ばに整備されることにより、茨城方面成田市街の交通により混雑している国道 408 号、国道 295 号の交通は、北千葉道路及び国道 51 号へ転換することが予想されます。その結果、主要渋滞ポイントである国道 408 号土屋交差点の渋滞は解消されますが、国道 51 号の交通需要の増加が考えられます。
- 北千葉道路の整備と合わせ、国道 51 号の拡幅を進めることで、成田市内の交通の円滑化を推進します。



(3) 航空貨物需要の増加に伴う対応

- ・2010年度末に平行暫定滑走路の延伸(2500m化)に伴い、成田空港の国際空港貨物取扱量が増加します。
- ・これに伴い、成田空港周辺で物流施設の増加が見込まれ、国道51号の交通需要が高まることが予想されます。



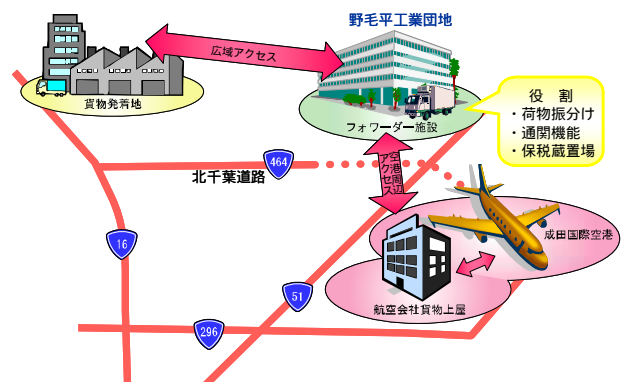
成田空港周辺で物流施設が増加

1998年に規制緩和により市川市原木にあるTACT以外でも通関が可能
成田空港周辺に通関機能を備えたフォワーダー施設が増加

空港周辺フォワーダー施設は'02~'05で約3倍に激増



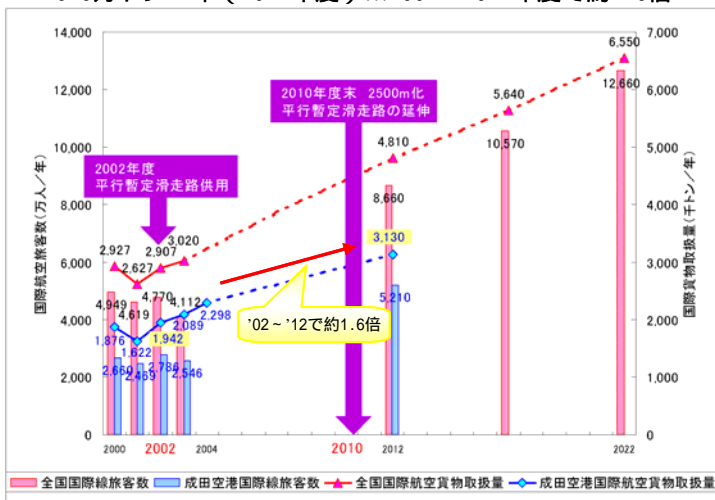
平成14年 成田空港平行暫定滑走路供用開始後の
空港周辺フォワーダー施設面積の推移



国際航空貨物の見通し

成田国際空港の国際航空貨物取扱量

313万トン/年(2012年度)...2002~2012年度で約1.6倍



将来の国際線旅客数と貨物取扱量の推移(成田国際空港、全国)

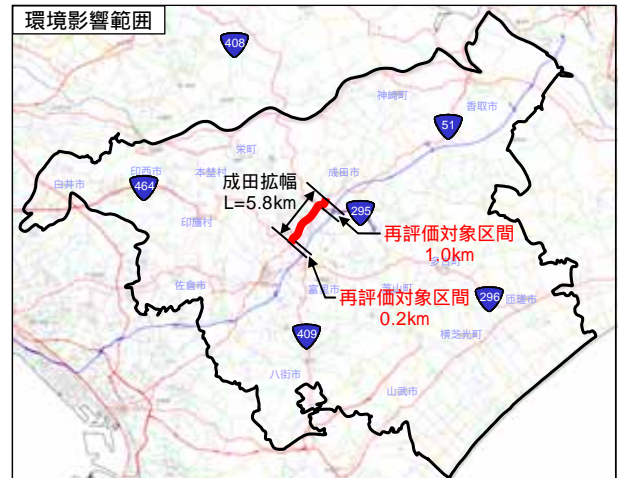
出典:2002年交通政策審議会航空分科会 空港整備部会資料より

(4) 沿道環境の改善

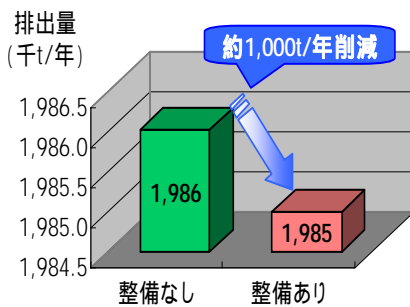
成田拡幅事業の整備により CO₂、NO_x、SPM の年間排出量が削減されます。

成田拡幅事業周辺地域の CO₂ の年間排出量は約 1000 t・CO₂ 削減され、森林吸収面積で日比谷公園の約 6 倍に相当します。

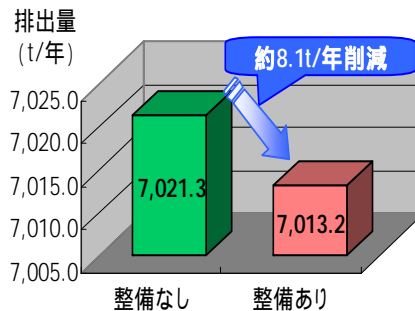
NO_x の年間排出量は約 8.1 t 削減され、東京都を走行する大型車に換算すると約 3 万台に相当します。SPM の年間排出量は約 0.6 t 削減され、ペットボトル約 6 千本分に相当します。



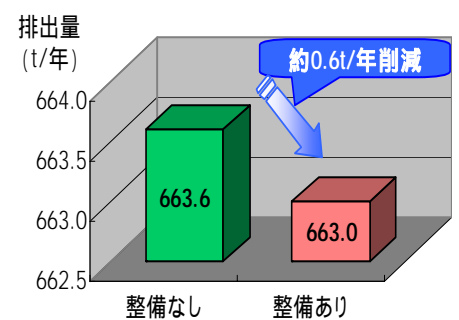
香取市は旧佐原市の区域を対象としている



CO₂排出量の削減量



NO_x排出量の削減量



SPM排出量の削減量

二酸化炭素 (CO₂) 削減効果は、
**日比谷公園の
約6倍に植林したことに相当**



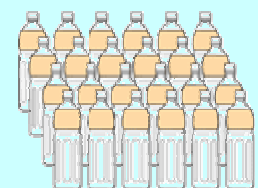
日比谷公園面積: 16ha
(植林によるCO₂削減量は10.6t・CO₂/ha/年とした)

窒素酸化物 (NO_x) の削減効果は、
大型車約2万6千台に相当



大型車1台が40km/hで東京都における平均距離(約70km)を走行した場合に排出するNO_x量に換算

浮遊粒子状物質 (SPM) の削減効果は
1年間に
500mlペットボトル約6千本

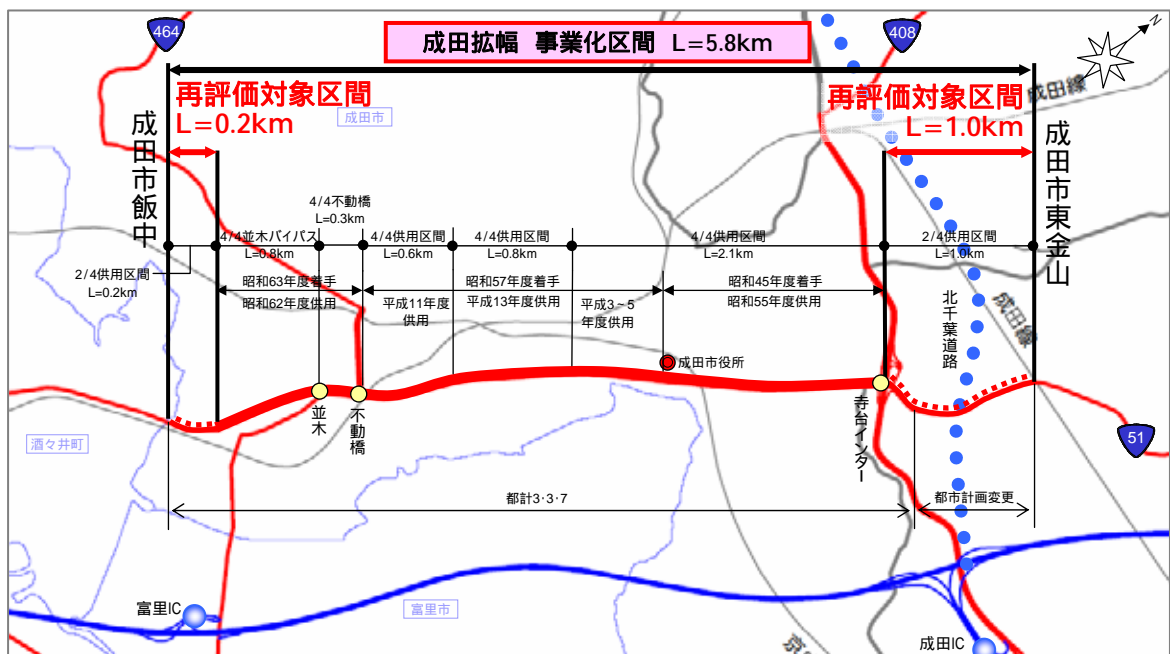


500mlペットボトル1本はSPM約100gに相当

4. 事業の経緯と進捗

(1) 事業の経緯

昭和 43 年 11 月	都市計画決定
昭和 45 年度	事業着手
昭和 46 年度	用地買収着手
昭和 55 年度	成田空港開港関連 4 車線化供用 (L=1.3km)
昭和 61 年度	不動橋 4 車線化供用 (L=0.3km)
昭和 62 年度	並木バイパス 4 車線化供用 (L=0.8km)
平成 3 年度	成田市役所前 4 車線化供用 (L=0.5km)
平成 5 年度	区画整理事業関連 4 車線化供用 (L=0.3km)
平成 11 年度	不動ヶ岡地先 4 車線化供用 (L=0.6km)
平成 13 年度	不動橋交差点 ~ 不動ヶ岡地先 4 車線化供用 (L=0.8km)
平成 17 年度	寺台 ~ 東金山 (L=0.8km) 都市計画変更 (北千葉道路と同時に実施)



(2) 事業の進捗

当初の予定

成田拡幅は空港関連整備が主目的であったため、成田空港へのアクセス道路交差部付近及び、主要渋滞ポイント、土地区画整理事業他からの段階的な4車線化を図ることとしました。

現在の状況

全体事業費	約 217 億円
うち用地費	約 106 億円
執行済み額	約 195 億円 (進捗率 90%)
うち用地費	約 89 億円 (進捗率 84%)
残事業費	約 22 億円
4車線化供用済延長	4.6km
2車線区間延長	1.2km

本事業区間は成田空港関連として事業に着手し、はじめに空港開港にあわせて成田駅前から空港へ直結している国道 295 号の立体交差（寺台インター）までの間を優先区間として整備しました。つぎに東関東自動車道富里 IC の接続により交通渋滞が生じていた並木地区のバイパス整備を行い、その後並木地区から市役所前の整備を完成させ、これまでに 4.6km を 4 車線供用しています。

整備にあたってはそれぞれ目的に応じて早期に効果が発現するよう段階的な整備を図っています。

今後の予定

起点部 200m、終点部 1,000m について、都市計画決定がなされており、周辺の土地区画整理も完成していることから、完成 4 車線を目指し整備を進めます。

地元の状況

一般国道 51 号整備促進期成同盟会

(会長：佐原市会長・成田市・佐倉市・千葉市・四街道市・酒々井町 他)

昭和 37 年 5 月発足 年 1 回要望

5 . 費 用 対 効 果

B / C

路 線 名	一般国道 51 号
事 業 名	成 田 拡 幅
延 長	1.2 km

便益

	走行時間 短縮便益	走行費用 減少便益	交通事故 減少便益	合 計
基 準 年	平成 19 年			
基準年における 現在価値 (B)	52 億円	6 億円	1 億円	60 億円

費用

	改 築 費	維持修繕費	合 計
基 準 年	平成 19 年		
基準年における 現在価値 (C)	24 億円	5 億円	29 億円

算定結果

費用便益比 (B / C)	
$B / C = \frac{\text{便益の現在価値の合計 (B)} \quad 60 \text{ 億円}}{\text{費用の現在価値の合計 (C)} \quad 29 \text{ 億円}}$ $= 2.1$	

6. 今後の対応方針（原案）

（1）事業の必要性等に関する視点

関連事業である北千葉道路は、平成 20 年代半ばの整備に向けて、成田拡幅と接続する約 3.7km 区間が今年度事業化されました。

また、平成 22 年には、成田空港の新滑走路が開港する予定であり、今後物流施設の増加が見込まれています。

北千葉道路との接続による交通需要の増加や、成田空港の新滑走路開港に伴う貨物需要の増加を踏まえると、国道 51 号成田拡幅の早期整備が必要です。

（2）事業進捗の見込みの視点

平成 13 年度までに全体の約 79%の 4 車線化が完了しており、残る区間の 4 車線化への地元住民の要望も高いことから、引き続き、地元の協力を得ながら用地買収を進め、早期に全線 4 車線化を行う予定です。

（3）対応方針（原案）

当事業は、継続が妥当と考え、関連事業である北千葉道路との一体的な整備に向けて、今後も引き続き事業を推進し、早期完了を目指し進めてまいります。